

皆さんおはようございます。

1 1月も下旬に入ってまいりました。来月の今頃はもうすっかり年末の雰囲気になっていることと思います。そして、来週からはいよいよアドベントです。主のご降誕を待ち望みます。

黙示録は14章です。来週15章を読み終えてからルカ福音書に入っていきたいと思っております。

今日も4節に「あがなわれた者」という言葉がありますが、どうにもこうにも救いようのない者に襲い来る終わりの時、その神様の怒りと裁きから贖い出すために御子キリスト・イエスが血潮を注ぎだされたという出来事を深く思います。その供え物となるために、人の代表として身代わりとなって命を注ぎ出すためにイエス様はお生まれ下さいました。

それでは今日の個所を読み進めてまいりましょう。

1 なお、わたしが見ていると、見よ、小羊がシオンの山に立っていた。また、十四万四千の人々が小羊と共におり、その額に小羊の名とその父の名とが書かれていた。

小羊イエス様がシオンの山に立っておられます。シオンとはエルサレムをも指します。イエス様はご自分の民全てのために屠られる羊として立たれます。今日の見方ではイスラエル、ユダヤ人、エルサレムの為だけでなく、全人類のために山に立っておられます。

黙示録7章に出てきました救われる14万4千人が再び登場します。12部族に12の数、完全数がかけられる、その上に1000がかけられるということ、これは全世界の人をあらわす数と理解されると思います。この14万4千人は小羊と共にあります。そしてその額には小羊の名とその父の名とが記されています。

群れの牧場の生き物のためには、その所有者の名が記されており、それはその命をその所有者が守るという印でもあります。私たちは神様の群れの牧場に属しており、私たちの命はこの神様によってしかと守られています。

先には悪魔と獣の喧騒の中、多くの人たちが膝をかがめ獣を拝み、その右手か額に記しを帯びていましたが、私たちは悪魔の印を帯び、その守りと影響の中に生きることと、神様のものとなり、命の守りの中にあることと、どちらを選ぶべきでしょうか。

2 またわたしは、大水のとどろきのような、激しい雷鳴のような声が、天から出るのを聞いた。わたしの聞いたその声は、琴をひく人が立琴をひく音のようでもあった。

3 彼らは、御座の前、四つの生き物と長老たちとの前で、新しい歌を歌った。この歌は、地からあがなわれた十四万四千人のほかは、だれも学ぶことができなかった。

大水のとどろきのような、激しい雷鳴のような声が、天から出るのを聞きました。その声は、

琴をひく人が立琴をひく音のようでした。これは導かれ救われた14万4千人の歌う声、新しい歌を歌う声です。「この歌は、地からあがなわれた十四万四千人のほかは、だれも学ぶことができなかつた。」

黙示録5章にはこのように新しい歌について記されてありました。

5:7 小羊は進み出て、御座にいますかたの右の手から、巻物を受けとった。

5:8 巻物を受けとった時、四つの生き物と二十四人の長老とは、おのおの、立琴と、香の満ちている金の鉢とを手に持って、小羊の前にひれ伏した。この香は聖徒の祈である。

5:9 彼らは新しい歌を歌って言った、「あなたこそは、その巻物を受けとり、封印を解くにふさわしいかたであります。あなたはほふられ、その血によって、神のために、あらゆる部族、国語、民族、国民の中から人々をあがない、

5:10 わたしたちの神のために、彼らを御国の民とし、祭司となさいました。彼らは地上を支配するに至るでしょう」。

5:11 さらに見ていると、御座と生き物と長老たちとのまわりに、多くの御使たちの声が上がるのを聞いた。その数は万の幾万倍、千の幾千倍もあって、

5:12 大声で叫んでいた、「ほふられた小羊こそは、力と、富と、知恵と、勢いと、ほまれと、栄光と、さんびとを受けるにふさわしい」。

この新しい歌とは、屠られ、その血によって贖いとなられた屠られた小羊に対する永遠の賛美でした。それは日々新しく、新しく新しい感動をもってほめたたえられ、奏でられる賛美と感謝の歌です。贖われた者こそが、贖い主への感謝を捧げます。

4 彼らは、女にふれたことのない者である。彼らは、純潔な者である。そして、小羊の行く所へは、どこへでもついて行く。彼らは、神と小羊とにささげられる初穂として、人間の中からあがなわれた者である。

5 彼らの口には偽りがなく、彼らは傷のない者であった。

聖書は結婚を禁じているものではありませんから、ここで言う純潔とは、霊的な純潔の事であると思われます。キリストの花嫁として、私たちはキリストを花婿と慕い求め、追いつけ、他のもろもろの誘惑をも魅力をも避けて進みます。

小羊の行くところならばどこにでもついて行きます。

マタイ 8:18 イエスは、群衆が自分のまわりに群がっているのを見て、向こう岸に行くようにと弟子たちにお命じになった。

8:19 するとひとりの律法学者が近づいてきて言った、「先生、あなたがおいでになる所なら、どこへでも従ってまいります」。

8:20 イエスはその人に言われた、「きつねには穴があり、空の鳥には巣がある。しかし、

人の子にはまくらす所がない」。

8:21 また弟子のひとりが言った、「主よ、まず、父を葬りに行かせて下さい」。

8:22 イエスは彼に言われた、「わたしに従ってきなさい。そして、その死人を葬ることは、死人に任せておくがよい」。

マタイ 16:24 それからイエスは弟子たちに言われた、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。

16:25 自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのために自分の命を失う者は、それを見いだすであろう。

16:26 たとい人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得になろうか。また、人はどんな代価を払って、その命を買いもどすことができようか。

そして救われた者たちは、「彼らは、神と小羊とにささげられる初穂として、人間の中からあがなわれた者」であり、「彼らの口には偽りがなく、彼らは傷のない者であった」と記してあります。

私たちが贖われたのは、「神と小羊とにささげられる初穂として」であり、私たちが神にささげられる初穂であって、その後続々と、地から神様に向けて贖われたものが神様に献身し、従いゆくための第一歩であり、言わば呼び水のような存在であることが分かります。そして救われた者は、口に偽りがなく、傷のない、短所のない、完璧な、欠点や汚点のない者とされています。穴があったら入りたい様な思いですが、これが神様がイエス様の贖いによって私たちに成し遂げて下さったことです。

6 わたしは、もうひとりの御使が中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音をたずさえてきて、

7 大声で言った、「神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである。天と地と海と水の源とを造られたかたを、伏し拝め」。

ここからたくさんのお使いたちが登場します。

あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音があります。救いを知らせる良い知らせです。それはすべての国民、部族、国語、民族に宣べ伝えられるものです。

「神をおそれ、神に栄光を帰せよ。」

獣たちを礼拝するおぞましい動きがありました。迫害があり、首根っこを押さえてでも礼拝させようとの働きがあり、神様を侮辱し、冒瀆する声がこだましました。しかし人にとってのすべてはここにあるのです。

「神をおそれ、神に栄光を帰せよ。」

「天と地と海と水の源とを造られたかたを、伏し拝め」。神のさばきの時が来た。

- 8 また、ほかの第二の御使が、続いてきて言った、「倒れた、大いなるバビロンは倒れた。その不品行に対する激しい怒りのぶどう酒を、あらゆる国民に飲ませた者」。
- 9 ほかの第三の御使が彼らに続いてきて、大声で言った、「おおよそ、獣とその像とを拝み、額や手に刻印を受ける者は、
- 10 神の怒りの杯に混ぜものなしに盛られた、神の激しい怒りのぶどう酒を飲み、聖なる御使たちと小羊との前で、火と硫黄とで苦しめられる。
- 11 その苦しみの煙は世々限りなく立ちのぼり、そして、獣とその像とを拝む者、また、だれでもその名の刻印を受けている者は、昼も夜も休みが得られない。

神の怒り、神の激しい怒りという言葉が10節には繰り返されます。

大いなるバビロン、神に逆らう国と勢力は倒れます。この時にはローマであると思われすが、歴史の中を通して、神に逆らう国は倒れます。悪魔と紙に逆らう勢力に膝を屈する者は、地に身を投げうって礼拝する者はそのまま倒れて起き上がれなくなります。

「その不品行に対する激しい怒りのぶどう酒を、あらゆる国民に飲ませた者」、混乱と墮落に導く者は災いです。悪魔はそのように神の怒りをもたらす災厄を、さも効果で尊い、優れた魅力的な美酒のように人の口に入れさせようとたくらみます。そしてそのバビロンは倒れて起き上がれなくなります。

そしてその獣やその像を拝む者も神様の怒りと報い、天罰と報復、猛烈な怒り、激怒を飲み干すこととなります。それは混ぜ物無しで、少しも見ずに薄められることなく原液で濃いまままで飲むことになり、火と硫黄との中での苦しみを招きます。昼も夜も休みが得られない、永遠に続く責め苦があります。

- 12 ここに、神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある」。

その苦しみを味わわないようにと神様が与えられた救いを見つめましょう。神様は人にその苦しみを負わせないようにと、イエス様を与えて下さいました。このイエス様に信仰を持ち続けるその忍耐、こうして神様の戒めを守り続けることによって、救いが与えられます。

- 13 またわたしは、天からの声がこう言うのを聞いた、「書きしるせ、『今から後、主にあって死ぬ死人はさいわいである』」。御霊も言う、「しかり、彼らはその労苦を解かれて休み、そのわざは彼らについていく」。

- 14 また見ていると、見よ、白い雲があって、その雲の上に人の子のような者が座しており、頭には金の冠をいただき、手には鋭いかまを持っていた。

- 15 すると、もうひとりの御使が聖所から出てきて、雲の上に座している者にむかって大声

で叫んだ、「かまを入れて刈り取りなさい。地の穀物は全く実り、刈り取るべき時がきた」。

16 雲の上に座している者は、そのかまを地に投げ入れた。すると、地のものが刈り取られた。

17 また、もうひとりの御使が、天の聖所から出てきたが、彼もまた鋭いかまを持っていた。

18 さらに、もうひとりの御使で、火を支配する権威を持っている者が、祭壇から出てきて、鋭いかまを持つ御使にむかい、大声で言った、「その鋭いかまを地に入れて、地のぶどうのふさを刈り集めなさい。ぶどうの実がすでに熟しているから」。

19 そこで、御使はそのかまを地に投げ入れて、地のぶどうを刈り集め、神の激しい怒りの大きな酒ぶねに投げ込んだ。

20 そして、その酒ぶねが都の外で踏まれた。すると、血が酒ぶねから流れ出て、馬のくつわにとどくほどになり、一千六百丁にわたってひろがった。

鋭い鎌という言葉が何度も出てきます。これがふんだんに用いられ、投げ出され、地を歩き巡り、刈り入れがあちこちで行われます。普段であれば、ぶどうの房がふんだんに刈り取られ、それは大きな酒ぶねに入れられ、踏まれ、ぶどう液が流れ出て、喜びと共にぶどう酒が造られるのでしょけれども、ここでは違います。それは神様の怒りの内になされる裁きであって、その流れる者はぶどう液ではなくて地であると書いてあります。実にその血潮は馬の轡に届くほど深く、馬はその血潮の中を泳ぐように歩きます。そしてその流れる血潮の長さは296メートルの長さに及ぶとは。何という驚きと畏怖に満ちた光景なのでしょう。おぞましい、残酷でグロテスクな光景なのでしょう。1600丁。1600とは、四方である4を更に4倍し、完全数の10を掛け、更に10を掛けた数です。全世界にこの悲惨は流れ出しています。全世界がこの裁きから逃れられないのです。

しかし、忘れてはならないのは、聖書はそうならないがための警告を発しているということです。そんなこと形を見ることがないように、警告があり、悔い改めの促しがあり、悪しきものから遠ざかるようにとの有難い教えがあるのです。これが良い知らせ、福音なのです。その罪のもたらすおぞましい結果を得させないために、神様が愛する御子の血潮を注いでくださった。罪のない尊い神の一人子の血潮を、命を注いでくださった。ここに愛があります。ここに救いが、ここに慰めが、ここに守りが、ここに私たちが注意して見聞きすべき福音があるのです。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。私たちは尊い小羊の血潮によって贖われ、神様の緑の牧場の羊の群れに入れていただいていますことを、本当にありがとうございます。私たちには導き主、飼

い主である小羊の名と、その父なる神様の御名が記されており、神様のお守りと保護の中にある証印を頂いておりますからありがとうございます。聖徒の忍耐の中にも、労苦を解かれての休息と平安がありますからありがとうございます。子供からお年寄りまで、あらゆる年齢の方々が、この時こそ教会にて、イエス・キリストに出会うことができますようにお願いいたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン